

平成 23 年 4 月 25 日

東日本大地震・薬剤師ボランティア活動報告

市立秋田総合病院 薬剤部
金子 貴

東日本大震災レポート 第 13 報の中で、当院薬剤部の南雲、藤原が薬剤師ボランティア活動について報告していますが、引き続き、岩手県立大船渡病院において薬剤師ボランティア活動に参加してきましたのでご報告いたします。

派遣期間：平成 23 年 4 月 3 日（日）～平成 23 年 4 月 9 日（土）

実働期間：平成 23 年 4 月 4 日（月）～平成 23 年 4 月 8 日（金）

派遣場所：岩手県立大船渡病院

主な業務：院内調剤業務全般、入院時持参薬鑑別業務

移動手段：自家用車

ル ー ト：東日本大震災レポート 第 13 報 参照

<4 月 4 日から 4 月 8 日の院内・院外外来処方箋枚数と処方日数>

	院内外来処方箋 (総合診療科を含む)	院外処方箋	処方日数
4 月 4 日	425 枚	303 枚	14 日
4 月 5 日	354 枚	305 枚	14 日
4 月 6 日	387 枚	312 枚	14 日
4 月 7 日	278 枚	326 枚	14 日
4 月 8 日	657 枚	10 枚	30 日

当院から継続的に県立大船渡病院に派遣されることになり、先発隊からメールでの派遣先の情報がわかる日報や、引き継ぎ時に最新版の調剤内規を事前に入手することができた。さらに、調剤支援システムが当院と同様にユヤマであったことから、普段と同じような調剤業務を行うことができたと思う。院内処方箋に医薬品の棚番が印字されていたことも、効率的に調剤業務を行うことができた要因であった。採用薬については後発医薬品の採用率が高いと聞いていたため、今日の治療薬を持参し、不明な医薬品を調べながら調剤業務を行った。

同時期に派遣された薬剤師は、岡山大 1 名（岩手県遠野市を拠点に 3 泊 4 日で交代）、広

島大1名、群馬県1名であった。ボランティアの支援により他の日常業務にも手が回るようにはなってはきているが、今後の日常業務の拡大に向け、医薬品の在庫を確保しながら処方日数を14日から30日に延長していくことが今後の課題となっていた。

甚大な被害を受けた陸前高田では仮設診療所が開設され、薬剤師2名で対応している状況であったため、当初はそこへの支援も予定されていたが、門前薬局が開設されたために、今回の派遣期間内での支援は不要となった。しかし、今後は派遣先の医療機関から必要に応じて仮設診療所や避難所への支援も必要ではないかと思われる。

4月7日には宮城県沖を震源とする震度6弱の大きな余震により再び停電した。翌日は院外が復電しなかったため、外来診療は緊急医療体制となり、院外限定薬を含む処方を除き、すべて院内処方となった。オーダーリングシステムは通常通り稼動していたが、30日処方への日数延長の影響もあり、門前のアイン薬局からも2名の応援をしていただいて対応はしたものの、投薬までかなりの時間を要した。このことから、震災直後は計り知れない状況であったことが想像された。

最後に、工藤科長をはじめスタッフの皆様にはお疲れの中、大変お気づかいいただいたことに、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

以上、簡単ではありますがご報告とさせていただきます。